

発達障害・自閉症の理解と対応 ～行動障害を防ぐために～



千葉県発達障害者支援センター
所長（相談支援員） 仲村美緒

はじめに…困っているのは誰？



0. はじめに…困っているのは誰？

困っているのは誰？



【ある日の出来事】

- Aさんは職員と一緒に普段からよく行くショッピングモールに行きました
- 特設ステージではご当地アイドルが歌っていました
Aさんは歌が好きなので、もっと近くで見せようと
職員はAさんの手を引っ張って連れて行こうとしました
- Aさんは動こうとしません
職員は少し強めに手を引っ張りました
- Aさんは職員を突き飛ばし、走って行ってしまいました

0. はじめに・・・困っているのは誰？

困っているのは誰？



【職員の思い】

「いつものショッピングモールなのに何で騒ぐの？」
「歌が好きだから近くで見せようと思ったのに」



「いきなり突き飛ばさなくてもいいじゃない！」
「嫌なら嫌って言えばいいのに！」
「もうショッピングモールには連れて来ない！」



「もう支援しきれないわ！」
「暴力行為のある人は退所ね！！」

0. はじめに・・・困っているのは誰？

困っているのは誰



【Aさんの思い】

「うるさくて嫌だよ～」 「この音、嫌だよ～」
「早く帰りたいよ～」 「いつ帰れるの～」
「いつもと違うよ～」



障害特性により
自分の気持ちを言葉で表現できない



困り感を
目の前にいる人をたたく
目の前にあるものを投げる
自分の頭をたたく などの行動で表現



0. はじめに・・・困っているのは誰？

行動障害とは



障害特性を理解してもらえず、適切な行動を教えてもらえない

周囲の人が行動を止めるために、本人の望むようにしてしまう

不適切な行動をすると自分の気持ちが伝わると誤学習してしまう

気持ちが伝わるまで更に行動が激しくなっていく

=

行動が激しくなった状態が
強度行動障害の状態

0. はじめに・・・困っているのは誰？

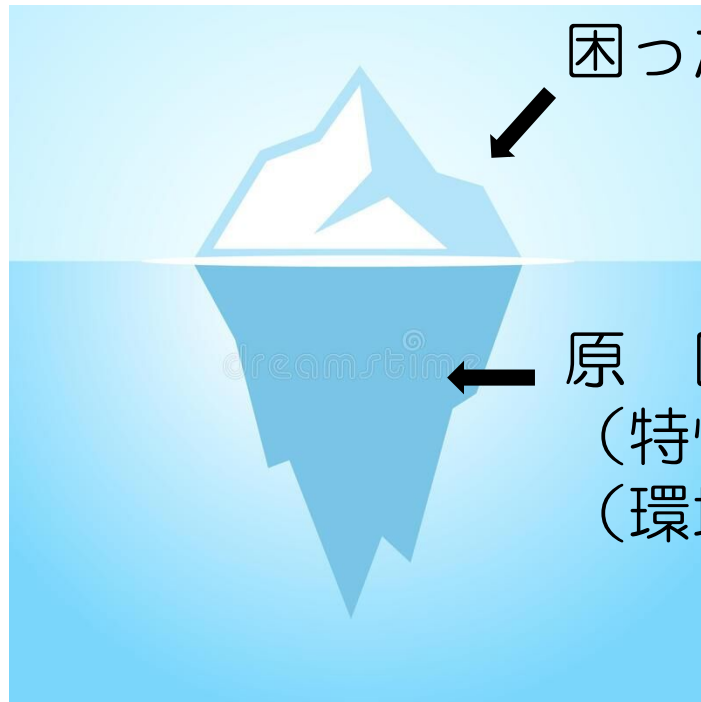
強度行動障害とは

- 自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度で起こるため、
特別に配慮された支援が必要になっている状態
- 医学的な診断名ではなく、福祉において必要な支援を判断するために使用されている

もともとの障害ではなく、その人の状態のこと

0. はじめに・・・困っているのは誰？

冰山モデル



困った行動 パニックになる
 大声を出す ものを壊す
 その場から逃げ出す

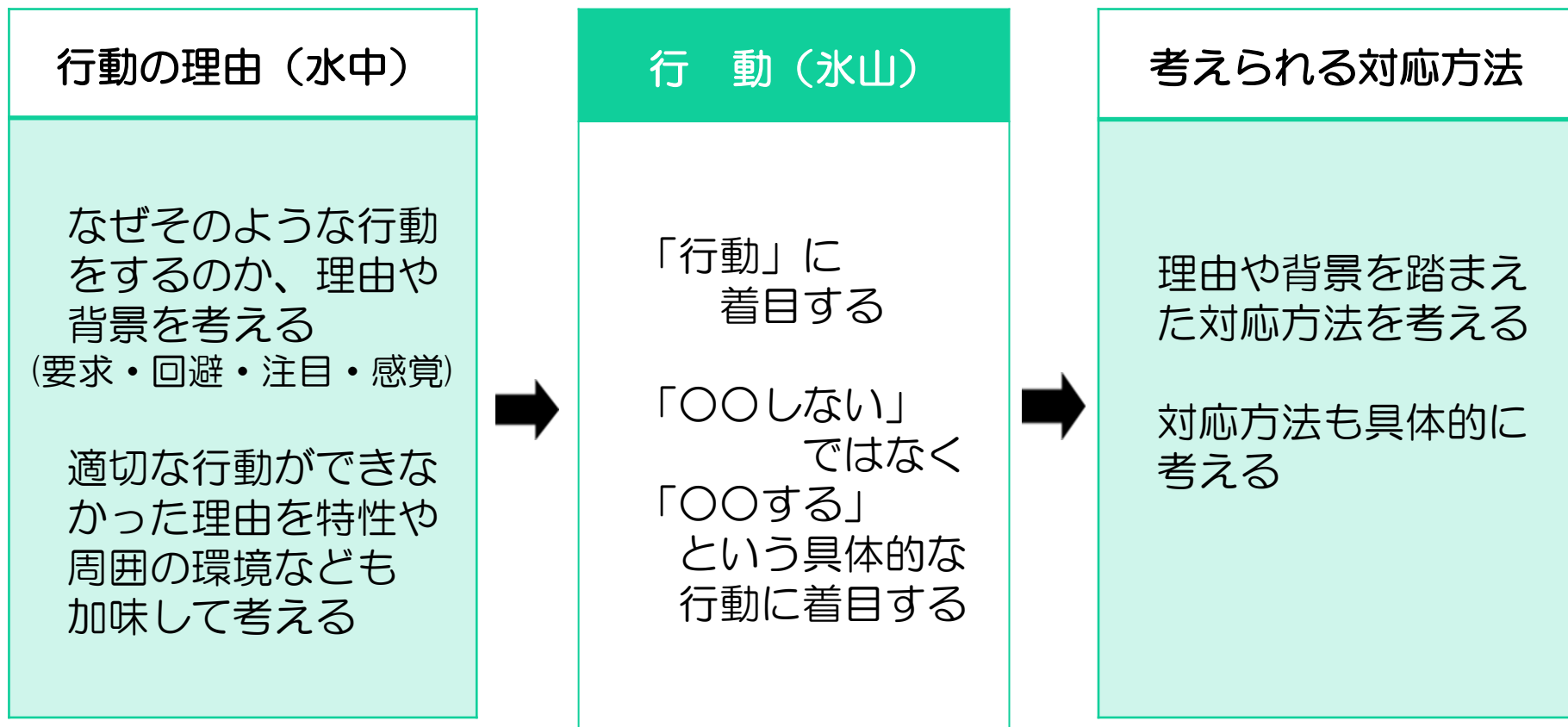
原因 嫌なことを嫌と言えない
（特性） 予定と違うことが起きて不安
（環境） 言われていることがわからない
 音やにおいが苦痛 etc

困った行動の背景には

多くの原因（特性・環境）がある

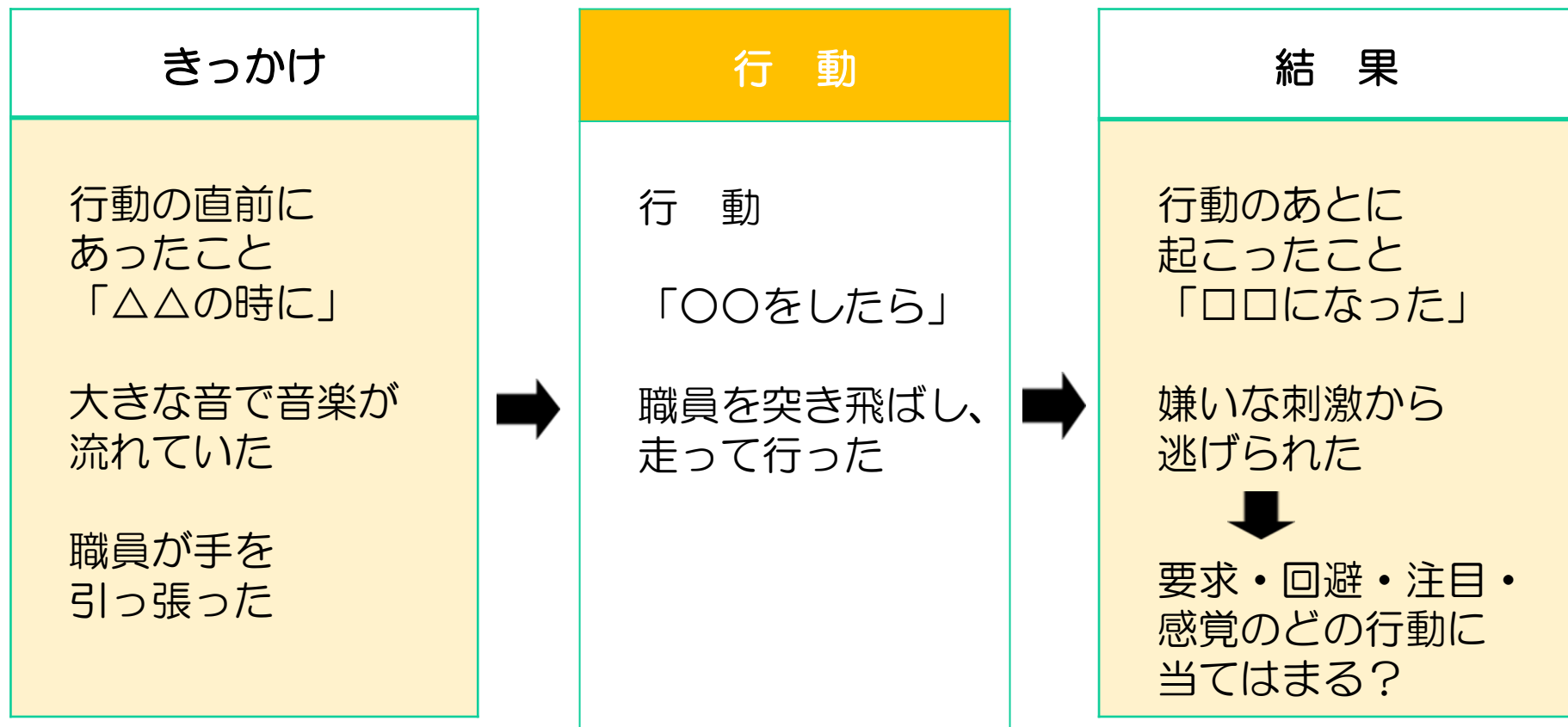
0. はじめに・・・困っているのは誰？

具体的な支援の考え方



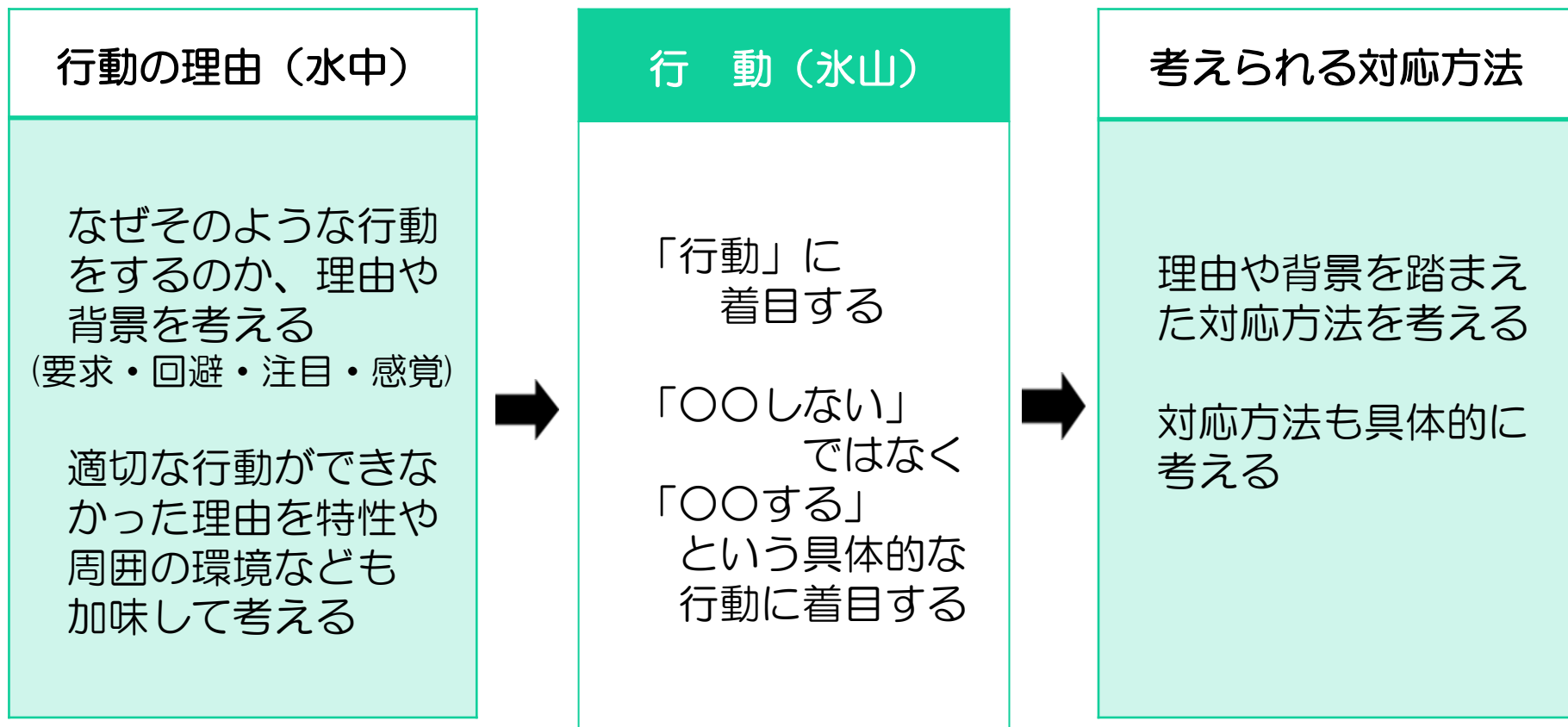
0. はじめに・・・困っているのは誰？

具体的な支援の考え方



0. はじめに・・・困っているのは誰？

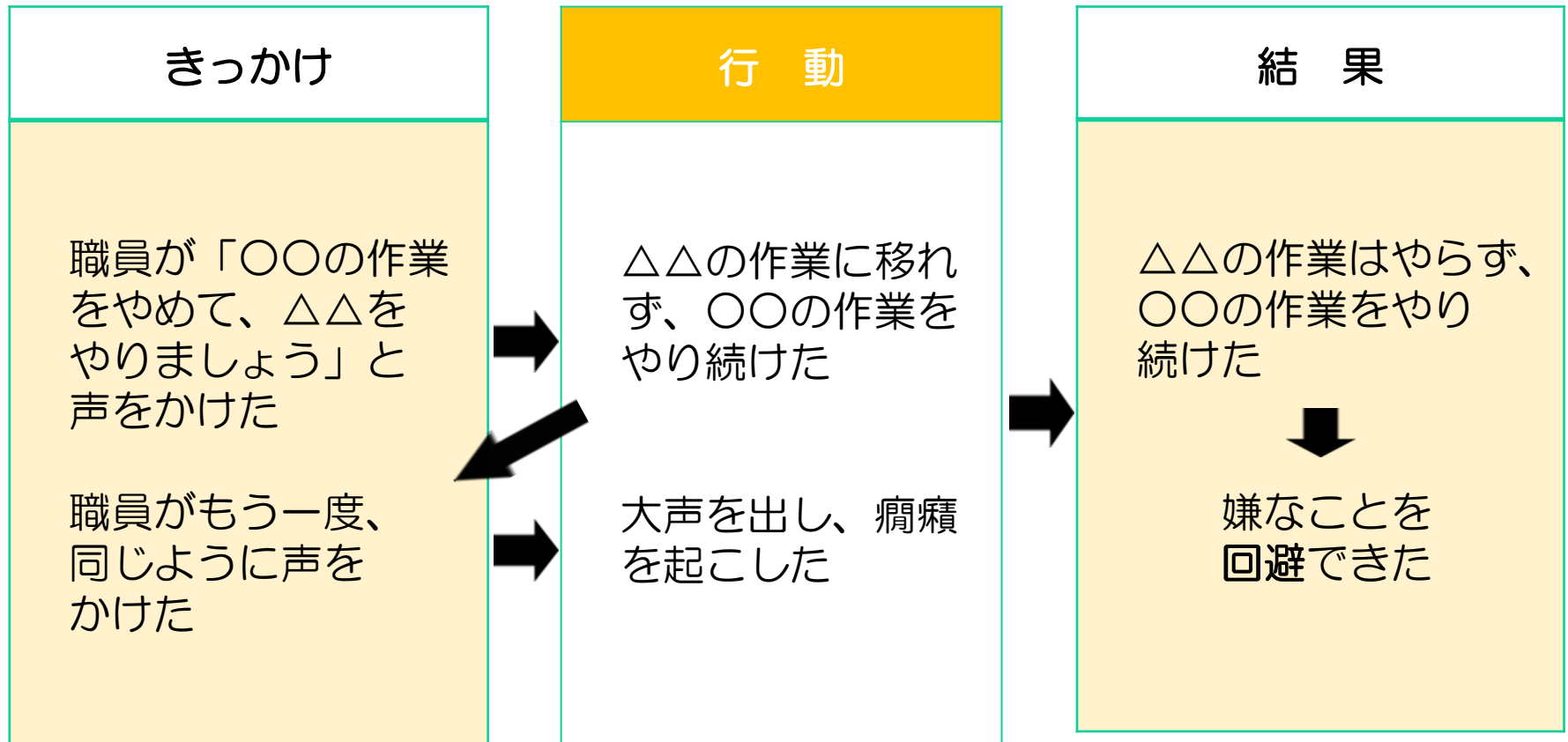
具体的な支援の考え方



0. はじめに・・・困っているのは誰？

具体的な支援の考え方

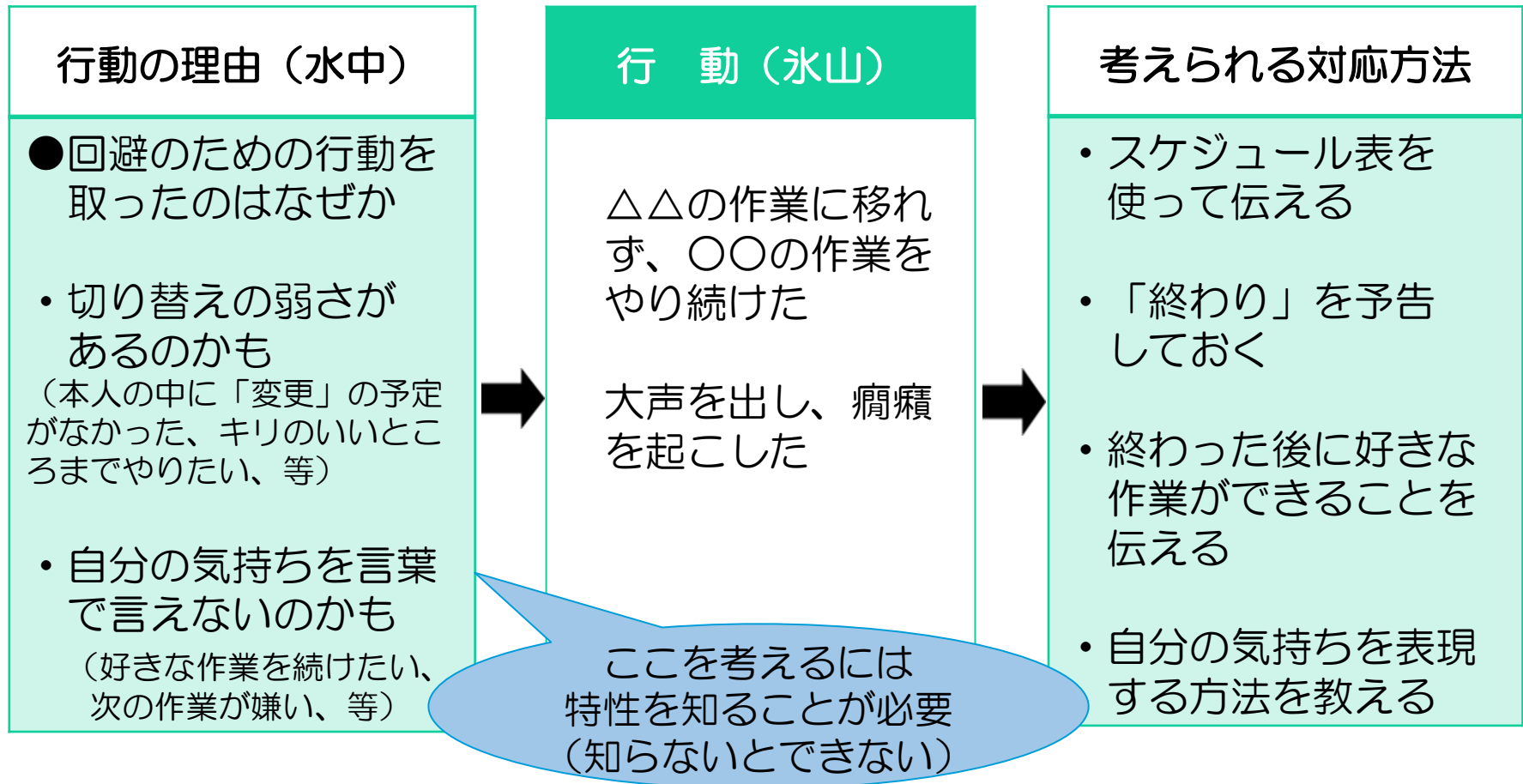
【例：次の作業に移ろうとすると大声を出す】



0. はじめに・・・困っているのは誰？

具体的な支援の考え方

【例：次の作業に移ろうとすると大声を出す】



0. はじめに・・・困っているのは誰？

強度行動障害になりやすいのは



発達障害の基礎知識



1. 発達障害の基礎知識

発達障害とは

○どんな障害？

- ・ 先天性の脳機能の障害
- ・ 発達に遅れ、偏り、歪みが見られる

遅れ：同じ年齢のみんなができてることができない
学習の問題として現れる

偏り：得意・不得意の差が大きい（凸凹がある）
行動の程度を超えた問題として現れる

歪み：他の人とは違うやり方、理解の仕方をする
周りが理解しにくい行動として現れる

- ・ 100人に数人程度（1～11%程度）がもつ



1. 発達障害の基礎知識

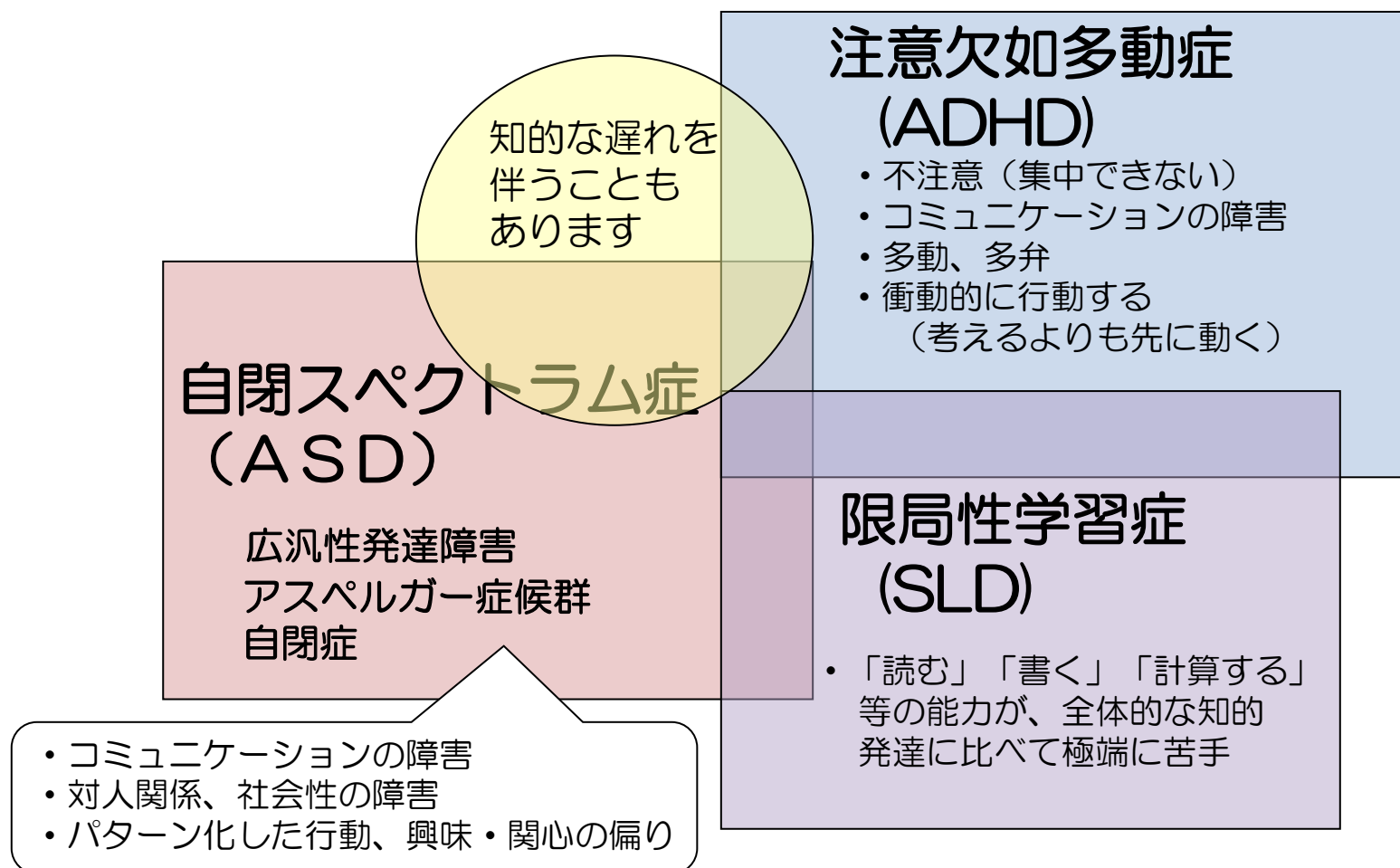
発達障害とは

○どんな障害？

- 発達の遅れ、偏り、歪み = 発達障害 ではない
- 毎日の生活で支障をきたしている
→ 適応行動に問題がある
※適切な行動をするために必要な知識と技能の習得が
うまくいかず、困難が生じている状態
- 発達障害の診断は状態診断
→ 発達の遅れ、偏り、歪み + 適応行動に問題がある状態

1. 発達障害の基礎知識

発達障害の分類



※このほか、トゥレット症候群や吃音（症）、発達性協調運動障害等も含まれる

知的能力障害（知的障害・精神発達遅滞）

- ・ 発達期（概ね18歳以下）に生じた知的機能の障害
- ・ 学習面も含めた全般的な知的能力（理解、判断、思考、記憶、知覚等）が年齢に応じて発達していない状態
- ・ 適応能力（社会生活全般に関わる能力）が年齢に応じて発達していない状態

※知能とは

知能とは読み書きや計算をする能力だけではない
物事を理解、判断して、よりよい選択をしたり、
社会のルールを守って、人と円滑な関係を築くなど、
生活のあらゆる場面で知能は働いている

1. 発達障害の基礎知識－知的能力障害－

○知的能力障害の特徴

- ことばがなかなか覚えられない
 - ことばの出始めが遅い
 - ことばの数がなかなか増えない
 - 助詞や文法間違いが多い
 - ことばの意味を理解しにくい
 - 発音がはっきりしない
- コミュニケーションがうまくできない
 - 自分の考えや気持ちをうまく言えない
 - 相手の言っていることや気持ちがわからない
- 物事を記憶しておくことが苦手
 - たくさん覚えられない
 - 長い時間、覚えていることができない
 - ものごとを理解したり身に付けるのに時間がかかる

1. 発達障害の基礎知識－知的能力障害－

- 抽象的な概念や経験していないことを理解するのが苦手
今、目の前にあるものを基本にして物事を認識する
→目の前にないものを頭の中で考えることが難しい
ものの性質を抽象的に考えることが苦手
時間・数量の理解が難しい
- 動きがぎこちなく、細かい作業が苦手
体がふにゃふにゃと柔らかい
左右にふらつきやすい
手足の動きがスムーズではない
指先がうまく使えない



1. 発達障害の基礎知識－知的能力障害－

- 他の人に頼りながら過ごしていることも多い
周囲の人のまねをして動く
自分で判断して行動することが苦手
誰かと一緒にいないと不安になる
逆にうまくできないことを全く気に留めていないことも
- IQ値による分類

最重度：IQ20以下	重度：IQ21～35
中 度：IQ36～50	軽度：IQ51～70
境界域：IQ71～85	

※実生活での適応状況を踏まえ、評価する方向に変わってきている

1. 発達障害の基礎知識－ASD－

自閉スペクトラム症（ASD）

- 自閉症や自閉症と類似した障害の総称
（アスペルガー症候群、広汎性発達障害、等）



○特徴

- 社会的コミュニケーションおよび対人的相互交流の障害
他者との距離感がつかみにくい
→他者に興味を示さない、一方的に関わる、要求がある時だけ関わる
ルール違反をしている人に注意してしまう
話す時に近づきすぎる

相手の気持ちを想像することが難しい

- 自分勝手に見える行動をする
周りを見て動くことが難しい（見ていてもわからない）
周囲の様子から期待されていることを察することが難しい
相手を傷つけたり、失礼なことを言うってしまう

自閉スペクトラム症（ASD）

○特徴

- ・ 社会的コミュニケーションおよび対人的相互交流の障害
気持ちを誰かと共有することが少ない
→ 集団生活になじみにくい、1人で過ごすことが多い
共同注視（指差しや視線の共有）が見られない

言語、非言語コミュニケーションが難しい

- 抽象的であいまいな表現がわからない
なんとなく、だいたいなどのイメージが持ちにくい
行間や言葉の裏の意図を読み取れない
年齢にそぐわない丁寧な言葉づかい、独特の言い回し
表情、指差しや視線、ジェスチャーが読み取れない

自閉スペクトラム症（ASD）

○特徴

- ・ 行動、興味、活動の限局的、反復的な様式

興味・関心の幅が狭い

→ 特定のものに強い興味を示し没頭し過ぎる

好きなもの以外には関心が向きにくく、経験が積みにくい

周りを見て動くことが難しい（そもそも見ていない）

少しの違いに敏感で、大きな不安を感じる

経験していないことの不安が強い（行事など）

こだわりがある（想像力の障害）

→ くり返しのパターンを好む、道順や手順などにこだわる

変化に弱く、予定変更や切り替えが苦手

初めての場所や人に慣れにくい

同じパターンをくり返す = いつもと同じ状態が安心

1. 発達障害の基礎知識－ASD－

自閉スペクトラム症（ASD）



○特徴

- ・記憶に特徴がある

特に長期記憶が優れている

視覚的な情報を覚える力が優れている

カメラアイと言われる瞬間記憶能力を持つこともある

強みでもあるが、デメリットもある

フラッシュバック タイムスリップ現象

→負の経験が残りやすく、いつまでも引きずってしまう

過去の出来事でも、今現在に起きているように感じる

逆に記憶力が悪い一面もある

ワーキングメモリーが低く、今必要な情報を覚えておけない

興味がないことは覚えられない、1つのことに集中し過ぎる

聴覚的な情報は覚えにくい

注意欠如多動症（ADHD）

- ・ 発達水準につりあわない注意散漫や衝動性・多動性を特徴とする行動の障害

○特徴

- ・ 不注意：気が散りやすく、注意集中が困難
 - 様々なものに気が向き、活動が長続きしない
 - 周囲に気を取られ、最後までやり遂げられない
 - 話を最後まで聞けず、聞きもらしが多い
 - ワーキングメモリーが低く、今必要な情報を覚えておけない

整理整頓が苦手、物をよくなくす
使うものだけを過不足なく持ってくるのが難しい

活動の途中でぼんやりする



注意欠如多動症（ADHD）

- 多動性：落ち着きがない、多弁
 - じっと座っていられず、立ち歩いたりする
 - 座っていても体の一部が動いたり、姿勢が崩れやすい
 - おしゃべりが止まらない
- 衝動性：気持ちのコントロールが難しい、突発的な行動をする
 - カッとなりやすく、すぐに手が出たり、言葉にしてしまう
 - 順番待ちをしないで割り込む
 - 話が終わるのが待てず、話に割り込む

※多動・衝動のない不注意優勢型

注意集中が続かず、忘れものや失くしものが多い
おっとり、マイペースに見える
→目立たないため、幼少期は見過ごされやすい

限局性学習症（SLD）



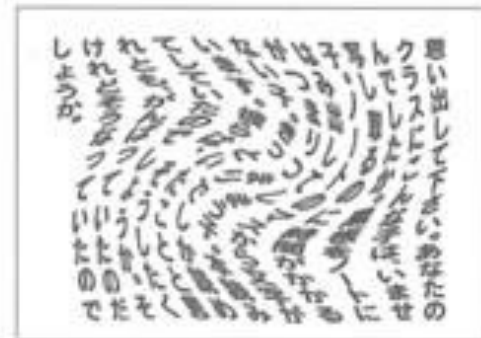
- 知的発達の遅れはない
 - 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するの基本的な学習能力のうち、1つもしくは2つ以上の能力を習得することに困難を示す
 - 得意、不得意の偏りが大きいことが特徴
- 例）文字を1つ1つ拾って読む、飛ばし読みをする
文字を書く時に枠からはみ出す、鏡文字になる
数字が覚えられない、アナログ時計が読めない

1. 発達障害の基礎知識—SLD—

限局性学習症 (SLD)



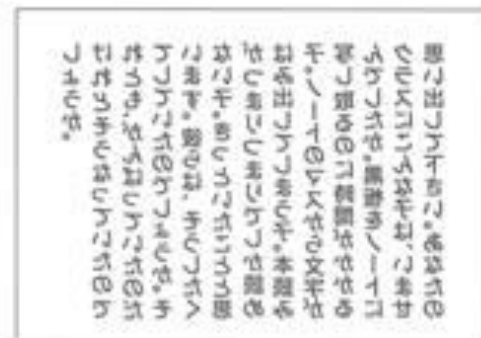
文字がにじんで見えたり



文字がゆらいで見えたり



かすんで見えたりします



鏡文字となって見えていたり

ディスレクシア（読み書き障害）の人の見え方の一例
（日本障害者リハビリテーション協会『「読める」って、楽しい。』より）

発達性協調運動障害（DCD）

- ・ 協調運動が年齢相応にできず、日常生活活動に支障がある状態
- ・ 他の障害や疾患、経験不足等では説明できない

○特徴

- ・ 粗大運動（体全体を大きく使う動き）の問題
 - よく転ぶ、段差でつまずく、転んだ時に手が出ない
 - ボール投げ、ケンケン、スキップなどが苦手、ぎこちない
- ・ 微細運動（手や指先を使った細かい動き）の問題
 - お箸やスプーン、ハサミや鉛筆などがうまく使えない
 - ボタンやファスナーがうまくできない
- ・ 協調運動（体の複数の箇所を同時に使う動き）の問題
 - コップからうまく飲めない お茶碗を持って食べられない
 - ブランコがこげない キャッチボールが苦手 縄跳びが飛べない



発達障害の特性



2. 発達障害の特性

コミュニケーションに関して困っていること

○理解が難しい

- 抽象的であいまいな表現の理解が難しい
 - 冗談、比喩、皮肉、たとえ話がわからない
 - 主語のない話、省略された話がわからない
 - 指示代名詞がわからない
 - 行間を読むことができない
- 一度にたくさんのことを理解するのが難しい
 - ワーキングメモリが低く、多くのことを覚えておけない
 - 注意集中が続かず、聞きもらしてしまう

2. 発達障害の特性

コミュニケーションで困っていること

○理解が難しい

- ・話し言葉の理解が難しい

※エコラリア（オウム返し）

[即時性のエコラリア]

話しかけたことばをそのまま返す

「朝ごはん食べた？」 『朝ご飯食べた』

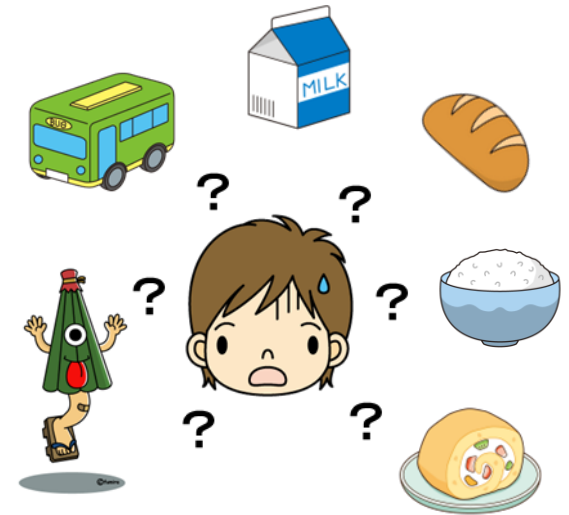
何度も聞いていくと関係ないことを言う

「何を食べたの？」 『朝ご飯食べた』 『何を食べたの?』

「何を食べたの？」 『お仕事行きます』

→何を言われているかわからない時に出る

わからないけど知っていることばで答えようとする



2. 発達障害の特性

コミュニケーションで困っていること

○理解が難しい

※エコラリア（オウム返し）

[遅延性のエコラリア]

CMのフレーズなどを言う

リラックスしている時や嬉しい時に
お気に入りのフレーズを言う

同じような状況で、くり返し言われてきたことを言う
注意されている時に『静かにしなさい』 etc

→以前は意味がない言葉のくり返しと言われていた
最近は肯定的な気持ちの表現、自分の行動の調整
などの役割があると考えられている



2. 発達障害の特性

コミュニケーションに関して困っていること

○発信が難しい

- 順序立てて話をするのがうまくできない
- 誰に、どのように伝えたらいいかわからない
- 音声言語によるコミュニケーションができない
- 返答していても理解しているとは限らない
 - 完全にわかっていなくても、何となく答えてしまう
 - わかっていなくても相づちを打ってしまう
 - 「わからない」と言うと怒られると思っている
 - 本人ルールで理解しているのでずれていることがある

2. 発達障害の特性

コミュニケーションに関して困っていること

○発信が難しい

- 話したことばと気持ちが違う

「お散歩に行こう」と誘う → 『お散歩行きます』

出かけようとしたら、かんしゃくを起こした

「チョコ食べる？」と聞く → 『チョコ食べます』

渡したら口に入れたけど、嫌そうな顔で丸飲み

自分の気持ちを正しく伝えられていない

ことばは話しているけど、機能的に使えていない

→ 話しことばだけでなく、目で見てわかるツールを
活用することで伝達度が増す

2. 発達障害の特性

社会性に関して困っていること

○人や集団との関わりが難しい

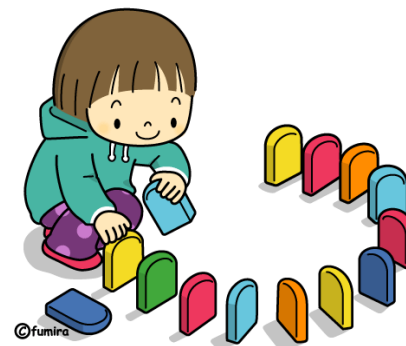
- 相手の気持ちを感じるのが苦手
 - 相手が期待していることがわからない
 - 様子を見て、相手の考えを察することが難しい
 - 嫌がっていることに気付かず、しつこくする
 - 自分と相手とで考えが違うとわからない
- 距離感（物理的、精神的）がつかめない
 - 話す時に近付きすぎる
 - 本音と建て前の区別がつかない
 - だまされやすい（悪意が読み取れない）
 - 相手に依存し過ぎてしまう



2. 発達障害の特性

社会性に関して困っていること

- 人への関心が薄い
ひとり遊びを好む
相手から関わられることを嫌がる
話しかけられても返事をしない
人よりものへの関心が強い



※クレーン現象

人の手を持ってほしいものに近付いて、
自分の要求を叶えようとする事
→自分の要求を叶えてくれる「人」が目に入らず、
要求を叶えている「手」のみが目に入る

2. 発達障害の特性

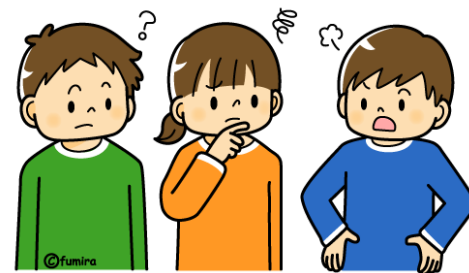
社会性に関して困っていること

○考え方の幅が狭い

- 白黒思考
- 経験を応用することが難しい

「自分のことを棚に上げている」ような発言が多い
言葉の意味を最初に覚えた意味でいつも使う

- 状況によって変わるということがわからない
約束したことは永遠に続くと思ってしまう
人の感情や状況が変わることがわからない
CMなどの映像が誇張されているとわからない
- 考え方に偏りがある
本人にしかわからないルールがある
本人なりの理屈がある



2. 発達障害の特性

社会性に関して困っていること



○状況の理解が難しい

- 周囲で起きていることへの関心が薄い
自分勝手に見える行動をする
周りを見て動くことが難しい（そもそも見ていない）
- 周囲の様子から期待されていることを察することが難しい
場にそぐわない行動をする
周りを見て動くことが難しい（見ていてもわからない）
- 見えないもの（暗黙のルール）の理解が難しい
失礼に見える行動をする
- やった方がいいこと、やらない方がいいことがわからない

→自分がすべきことやルールが明確であれば、
集団への適応が増す

2. 発達障害の特性

行動に関して困っていること

○ものや時間の管理が難しい

- 段取りを適切に組むことが難しい
- なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい
時間や期限を守れない
忘れもの、失くしものが多い
片付けができない、家事などをこなせない

- 今やることを自分で判断することが難しい
- 長期的な視点を持つことが難しい



2. 発達障害の特性

行動に関して困っていること

○変化への対応が難しい

- 先の予測をすることが難しい

経験していないことを想像することが難しい

- 臨機応変に判断することが難しい

予定が変わると不安になる

普段と異なる状況が起きるとパニックになる

- 自分のやり方から抜け出すことが難しい

特定の手順、やり方などへのこだわり

状態（窓やドアの隙間、物の位置）へのこだわり

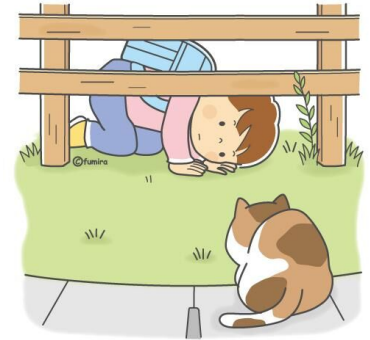
やりたくないことでも嫌々やる

→スケジュールなど見てわかる情報があると
わかりやすさが増す

2. 発達障害の特性

行動に関して困っていること

- 興味・関心の幅が狭くて強い
 - ・細部が気になり、違いに敏感
 - 少しの違いに大きな不安を感じる
 - ・興味、関心がないことに取り組むことが難しい
 - 期日に間に合わない
 - 後回し、先延ばしにする → そのまま忘れる
 - 衛生面、健康面などが疎かになる
 - 肥満、虫歯、生活習慣病、身だしなみが整っていない
- 興味、関心のある対象への思いが強みになる



2. 発達障害の特性

行動に関して困っていること

【参考】 シングルフォーカスの見え方



2. 発達障害の特性

行動に関して困っていること

【参考】 シングルフォーカスの見え方



まぜる
たまご
さとう



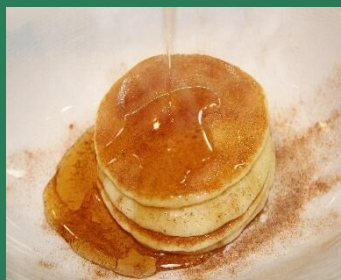
まぜる
こな



やく
おもて



やく
うら



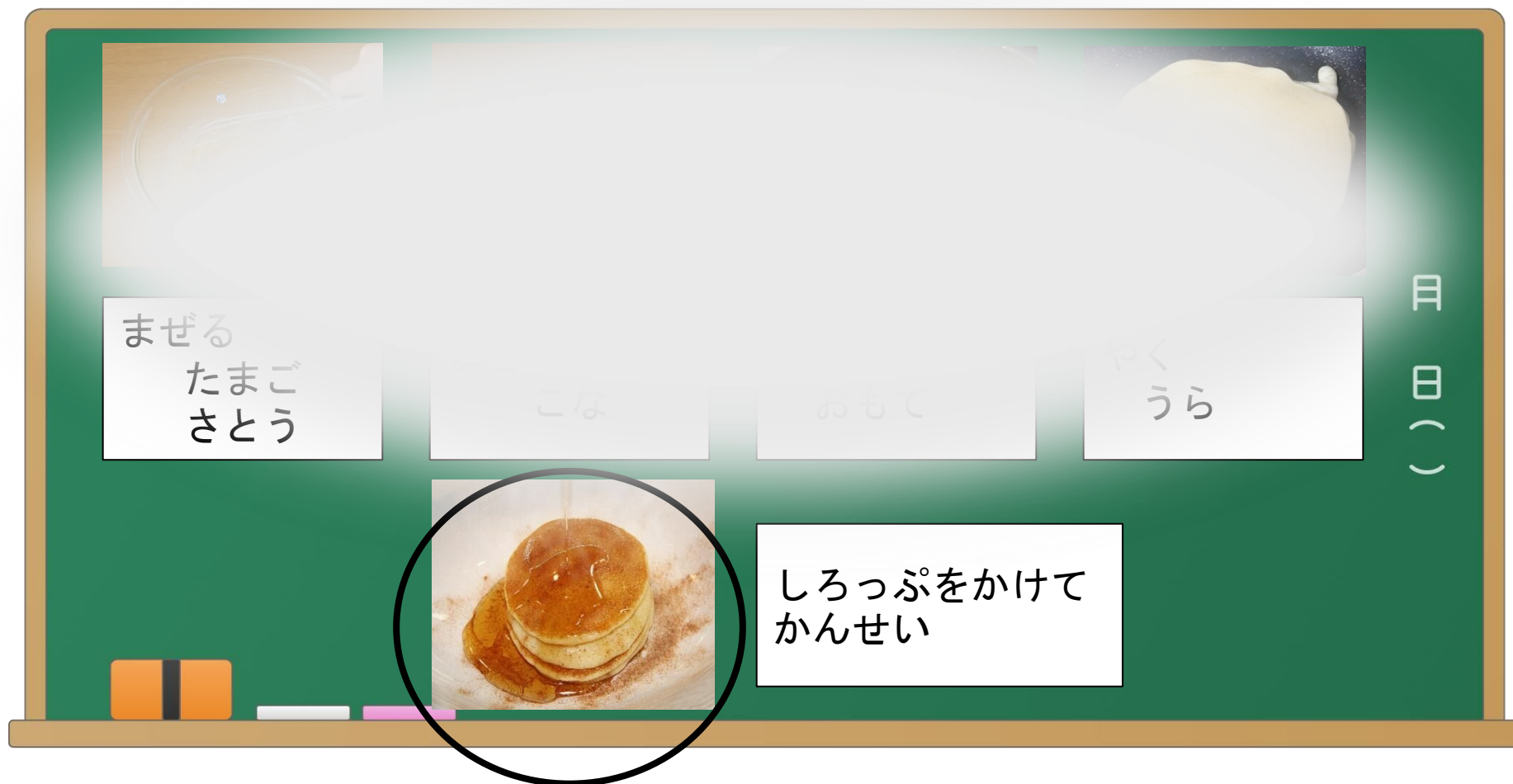
しろっぷをかけて
かんせい

月
日
()

2. 発達障害の特性

行動に関して困っていること

【参考】 シングルフォーカスの見え方



2. 発達障害の特性

感覚に関して困っていること

○感覚が過敏または鈍麻

特定の刺激に敏感で苦痛を感じる

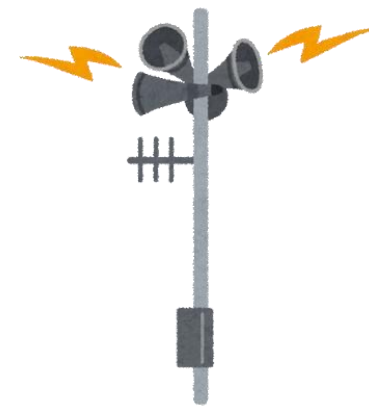
特定の刺激に対する反応が鈍い

[例]

- ・聴覚 過敏：子どもの声、ピストルの音が苦痛
全ての音が同じ大きさに聞こえる
→ざわざわした環境で、話を聞き取れない
(カクテルパーティー効果が効きづらい)

鈍麻：人からの声かけに気付きにくい

→聞き逃し、無視をしたと誤解される



2. 発達障害の特性

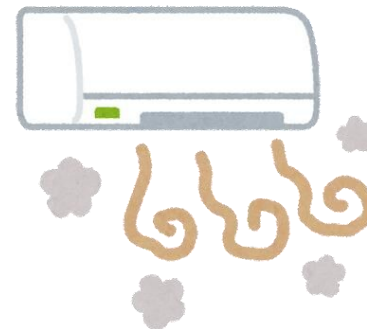
感覚に関して困っていること

○感覚が過敏または鈍麻

[例]

- 視覚 過敏：日差し、白い壁・テーブル、LEDが眩しい
タブレット画面のちらつきが気になる
- 嗅覚 過敏：公衆トイレに入れない、
化粧品売場を通れない
調理室から漂ってくるにおいが気持ち悪い

鈍麻：腐っている、傷んでいることに気付かない
自分の体臭に気付かず、衛生面が疎かになる



2. 発達障害の特性

感覚に関して困っていること

○感覚が過敏または鈍麻

[例]

- ・ 触覚 過敏：服のタグ、素材が気になり特定の服しか着ない
粘土、のり、砂、スライムに触れない
濡れた服が嫌で、少しでも濡れると脱いでしまう
人に触られるのが苦手、痛みを感じる
→「叩かれた！」とトラブルになることも

鈍麻：痛みに対して鈍感 暑さ、寒さを感じにくい
→治療が遅れ、命に関わることもある
服装の調整ができずに体調を崩す



2. 発達障害の特性

感覚に関して困っていること

○感覚が過敏または鈍麻

[例]

- ・味覚 過敏：味、食感が苦手で決まったものしか食べられない
味の混ざったものが食べられない
添加物の入ったものが食べられない
熱いもの、冷たいものが食べられない

鈍麻：腐っている、傷んでいることに気付かない
濃い味のものを好んで食べる
→塩分、糖分、油分の取り過ぎになりがち



2. 発達障害の特性

感覚に関して困っていること

○感覚が過敏または鈍麻

[例]

- 体内の感覚

空腹の感覚が乏しい

→食事を摂らない、食事を摂ることを忘れる

気圧の変化に弱い

→台風の時などに頭痛や吐き気などが起きる

疲れているという感覚を感じにくい

→睡眠を取らない、休息を取らない

→それが続いて、急に倒れる



2. 発達障害の特性

感覚に関して困っていること

○感覚が過敏または鈍麻

[例]

- 前庭覚に特有の感覚がある

前庭覚：身体の傾きやスピード、回転を感じる感覚

過敏：重力不安があり、少しの揺れや慣れない姿勢、
高いところなどを怖がる、乗り物酔いしやすい

鈍麻：自己刺激行動が起きる

飛び跳ねる、クルクルまわる、走り回る
まわる遊具やブランコから離れない



2. 発達障害の特性

感覚に関して困っていること

○感覚が過敏または鈍麻

[例]

- 固有覚がうまく使えない

固有覚：身体的位置や動き、力加減を感じる感覚

力加減がわからない 声の大きさがわからない
ものによくぶつかる 不器用

自己刺激行動（常同行動）：手をひらひらさせる、等
※自分が感じられる刺激を求めるあまり、血が出る
まで噛んだり、引っかいたり、頭をぶついたりと
いった自傷行為に発展することもある

特性に基づいた支援



3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮ーわかりやすい伝え方ー

○基本

- ・ ゆっくり、穏やかな口調で話す
- ・ 大きな声は出さない
- ・ 命令形「～しなさい」は使わない
- ・ 「ですます調」「～しましょう」で話す
- ・ 短く、簡単なことばで話す
- ・ 一度に出す指示は1つに絞る

3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮ーわかりやすい伝え方ー

- 文章を省略しない
 - ×「手続きはやっておきます」
 - 「〇〇の手続きはやっておきます」
- あいまいな表現を避け、具体的に話す
 - ×「もうちょっと」「あそこ」「片付けしましょう」
 - 「あと5分」「黄色い柱の前」
「この本を青い本棚に入れましょう」
- 指示代名詞には名詞をつける
 - ×「それ取って」「この前」
 - 「そのコップを取って」「先週の水曜（〇月〇日）」
- 冗談、皮肉、比喩、たとえ話は使わない

3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮ーわかりやすい伝え方ー

- 「ダメ」や禁止の言い方ではなく、肯定的な言い方で話す
 - ×「うるさい」「ダメ、それ違う！」
 - 「音量を3つさげて」「△△でなく〇〇するといいですよ」
- 二重否定は使わない
 - ×「片付けしないとおやつはあげない」
 - 「片付けしたらおやつにしましょう」
- 注意を引き、注意が向いたことを確認してから話す
- 話す内容を予告する
- 復唱させる
 - 「3つのことを言います。1つ目…、2つ目…、3つ目…」
 - 「確かめます。1つ目は？」「2つ目は？」「3つ目は？」

3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮ーわかりやすい伝え方ー

- 注意が向きやすいように環境を整える
 - 外の音が気になる時はドアや窓を閉める
 - 気になりそうなものは隠す
 - TVを消す、本を片付ける
 - 棚にカーテンや扉をつける
- 視覚的な情報を与える
 - 大切なことはメモにして渡す
 - 紙に書いて説明する
 - 絵や写真を用いる、実物を見せる



3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮－発信を引き出す－

- 1つ1つ具体的に確認していく
自分の価値観、常識で判断しない

やり取りですれ違いが起きやすい例

最 近：1週間？1ヶ月？1年？

できる：1回でもやったことがあれば「できる」

この1週間は「できてる」

逆に、完璧でないと「できない」

常 識：「普通」って何？

感 情：その感情になった理由は？

そう言っている意図は？

3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮ー発信を引き出すー

- 1つ1つ具体的に確認していく
自分の価値観、常識で判断しない

「熱中症にならないように塩分を摂っています」

『それはいいことだね』

『何から塩分を摂っているの?』

「スプーン山盛り1杯の塩をなめています」

情報を字義通りに受け取っている
一般常識的なことを理解していない



3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮ー発信を引き出すー

- 1つ1つ具体的に確認していく
自分の価値観、常識で判断しない

「〇〇と言われて嫌だったけど、言えなかったんです」

『嫌だったけど、気を使って言えなかったんですね』

「・・・はい」

→何て言ったらいいかわからなかったんだけど・・・

気を使うべきなんだ・・・

嫌だと言わない方がいいんだ・・・

『〇〇と言われて嫌だったんですね』と受容した上で

『嫌だって言えなかったのは何でですかね？』

3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮ー発信を引き出すー

- 1つ1つ具体的に確認していく
自分の価値観、常識で判断しない



「もう死にたい！！」

『死にたい気持ちになったんだね』と受容した上で
『何か嫌なことがあったの？』

「買ったイヤフォンが初期不良だった！」

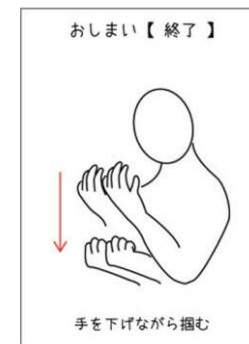
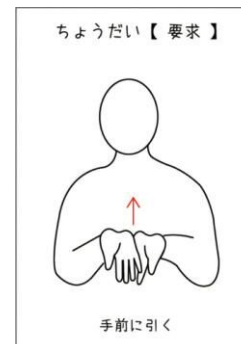
気持ちを表現するのに適切な言葉を使えていない
白黒思考により極端な考え方になっている

3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮－発信を引き出す－

- 選択肢を提示する
漠然と聞いても答えられないことも多い
選択肢を提示して、選んでもらう
- AAC 拡大・代替コミュニケーションを使う
自閉症の人は相対的に視覚優位
→言葉以外のコミュニケーション手段を使う

絵カード (PECS)
マカトンサイン
ICT機器、etc



3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮ー発信を引き出すー

OPECS（絵カード交換式コミュニケーション・システム）

◇PECSとは

自閉症やその他のコミュニケーション障害がある子の
自発的なコミュニケーションを促すために作られた、
絵カードを使った代替コミュニケーション法

ことばが話せなくても絵カードでコミュニケーションが
取れること、絵カードを自発的に渡しに行くことから
自発的なコミュニケーションができることが特徴

3. 特性に基づいた支援

コミュニケーションの配慮－発信を引き出す－

OPECS（絵カード交換式コミュニケーション・システム）



3. 特性に基づいた支援

状況説明の配慮

○あたり前のことも説明する

- ・「あたり前」「常識的」「見ればわかる」と思われる
ことでも説明する

共有のものを使い過ぎる

→1回の適量を知らない

キッチンや洗面所を水びだしにする（汚したままにする）

→使い終わったら拭く（掃除をする）ことを知らない

順番を守らない、割り込む

→順番があることを知らない

割り込むことが失礼だと知らない

注意だけでは何がいけないかわからない

ルールを説明して、これからどうしたらいいかを伝える

3. 特性に基づいた支援

手がかかり・見通しの配慮ー本人が気付ける工夫ー

○目で見てわかる手がかかりを使う

- スケジュール表
予定変更があった場合もわかりやすい
好きではない活動の後に楽しいことを入れる
- 手順書、マニュアル
その方の能力に応じて文字、写真、絵、実物で作成
- やることリスト
その時にやるべきことが見てわかる
- 絵カード
はみがき、トイレ誘導、クールダウン、etc
- 終わりが見えるようにする
作業などは「できるだけ」ではなく「今日はこれだけ」
- 場所の構造化
何をする場所か見てわかるようにする

3. 特性に基づいた支援

【午前の予定】

朝 礼

体 操

畑作業



封入作業

片付け

DVD15分

トイレ

昼 食

何が変更になるかわかりやすい

嫌いな作業の後にお楽しみがあると
取り組みやすい

【絵カード】



はみがき

「はみがき」
イラスト＋文字



「はみがき」
ハブラシのイラスト

【明日の準備】



ス
マ
ホ

定期
手帳

昼
の
薬

3. 特性に基づいた支援

【仕事から帰って来てやること】

上着を
かける

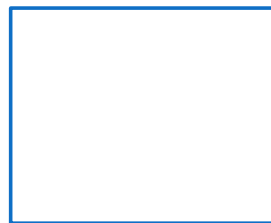
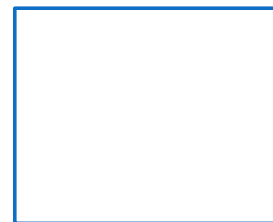
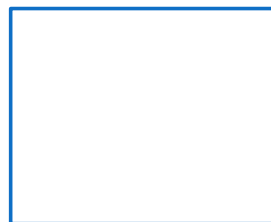
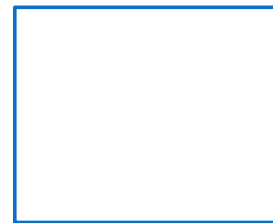
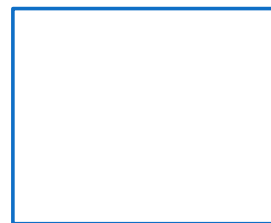
お風呂
に入る

水筒を
出す

明日の
用意

洗濯を
する

【終わったらこっちにはってね】



夕食

終わったら
夕食だよ♪

3. 特性に基づいた支援

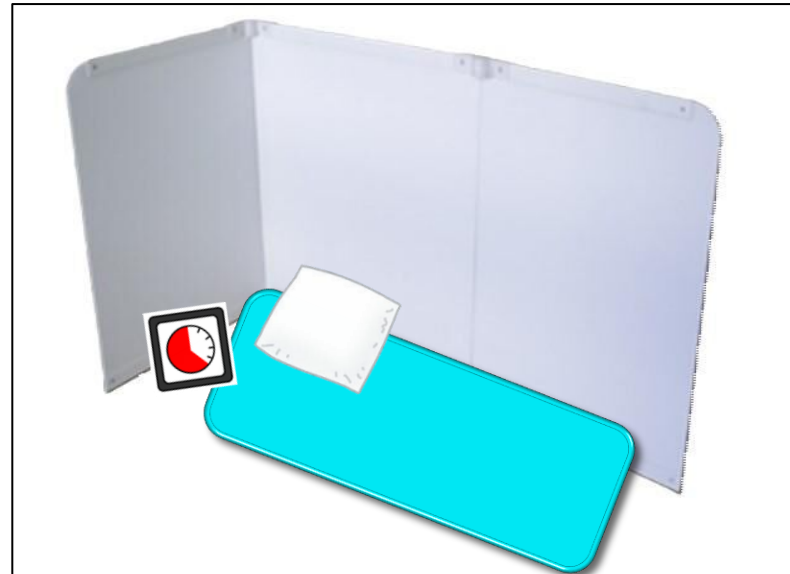
【お部屋の構造化】



※写真：平成27年度 強度行動障害支援者養成研修
（基礎研修）資料より

- 活動場所と休憩場所をわける
- パーテーション、カーテンで仕切る
- 床材やカーペットで色分けする
- 机や家具の配置を工夫して刺激を減らす
- 整理整頓して刺激を減らす

【休憩エリア】



- クッションやマットなどを置き
わかりやすくする
- 刺激を減らすためのパーテーション
- タイムタイマー等を使い、
時間の見通しがわかるようにする

3. 特性に基づいた支援

目で見てわかる支援（視覚支援）のメリット

- 絵カードでまず取り組むのは・・・
スケジュール、指示カード、手順カード
→特に指示カードはやらされている感が増え、
絵カードを見るのも嫌になってしまうこともある
- 併せてAACの活用も・・・
特にPECSは本人の要求からスタート
ほしいものが手に入る
成功で終わることができる → **意欲が続きやすい**

指示に従う練習ばかりをさせていると、指示待ちの状態になってしまうこともある

3. 特性に基づいた支援

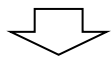
目で見てわかる支援（視覚支援）のメリット

OPECSって大変・・・

- ・ 実行するには講習会に出てからの方が望ましい・・・
- ・ 絵カードを作らなければいけない・・・

○自閉症の方のパニックやかんしゃくの起きる原因は？

- ・ 見通しが立たない、言われていることがわからない
- ・ 自分の要求が伝わらない、ことばで伝えられない



- | | | | | |
|-----------|---|---------|---|---------|
| ・ 視覚的な構造化 | ⇒ | ・ 理解できる | ⇒ | かんしゃくや |
| ・ AACの活用 | | ・ 伝えられる | | パニックが減る |

3. 特性に基づいた支援

感覚への配慮ー基本の考え方ー

○不安を軽減する

不安があると感覚過敏の症状が強くなる

- 見通しを伝える
スケジュールや手順を視覚的に伝える
- グッズを用意して刺激を減らす
感覚過敏の対策グッズを持っておく
自分の好きな感覚グッズを持っておく
- 不快な刺激から離れられる場所を用意する
カームダウンスペース
テントや段ボールで作った空間



3. 特性に基づいた支援

感覚への配慮ー基本の考え方ー

○カームダウンスペース

- 感情が高まったり、ストレスが強くなった時に落ち着くためのスペース
- パニックになった時に使うものではなく、日常生活の中で落ち着くために使う（パニックを未然に防ぐ）

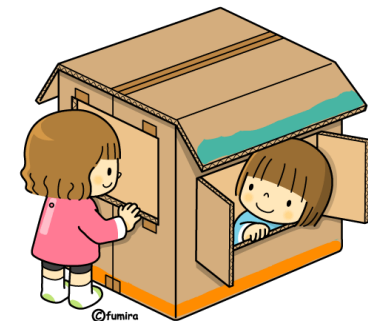


酒々井PA



段ボール製

手作りができます♪



3. 特性に基づいた支援

感覚への配慮ー聴覚過敏の例ー



○刺激を減らす

- イヤーマフ、耳栓、イヤフォン
- TELなど急に大きな音が出るものは音量を小さくしたり、布をかぶせる

○周りができる工夫

- 大きな声で話さない
- 前から声をかける
 - 驚かせない、気付きを促すの両面がある
- 話をする時は周りの音が入ってこないようにする
 - 静かな場所に移動、窓を閉める、TVを消す、etc
- 視覚的に情報を伝える

3. 特性に基づいた支援

感覚への配慮ー視覚過敏の例ー

○刺激を減らす

- ブルーライトカット（眼鏡、シート）、輝度を下げる
- 日傘、つばの大きい帽子、サンバイザー
- 照明の色を変える、調光する
- 白いテーブルにはクロスやマットを敷く

- 白い紙が眩しい場合

紙の質を変える

色付きの透明な下敷きを重ねる

リーディングルーラーを使う

（※文章を読むことが大変な方にも有効）



3. 特性に基づいた支援

感覚への配慮ー自己刺激行動と自傷行為ー

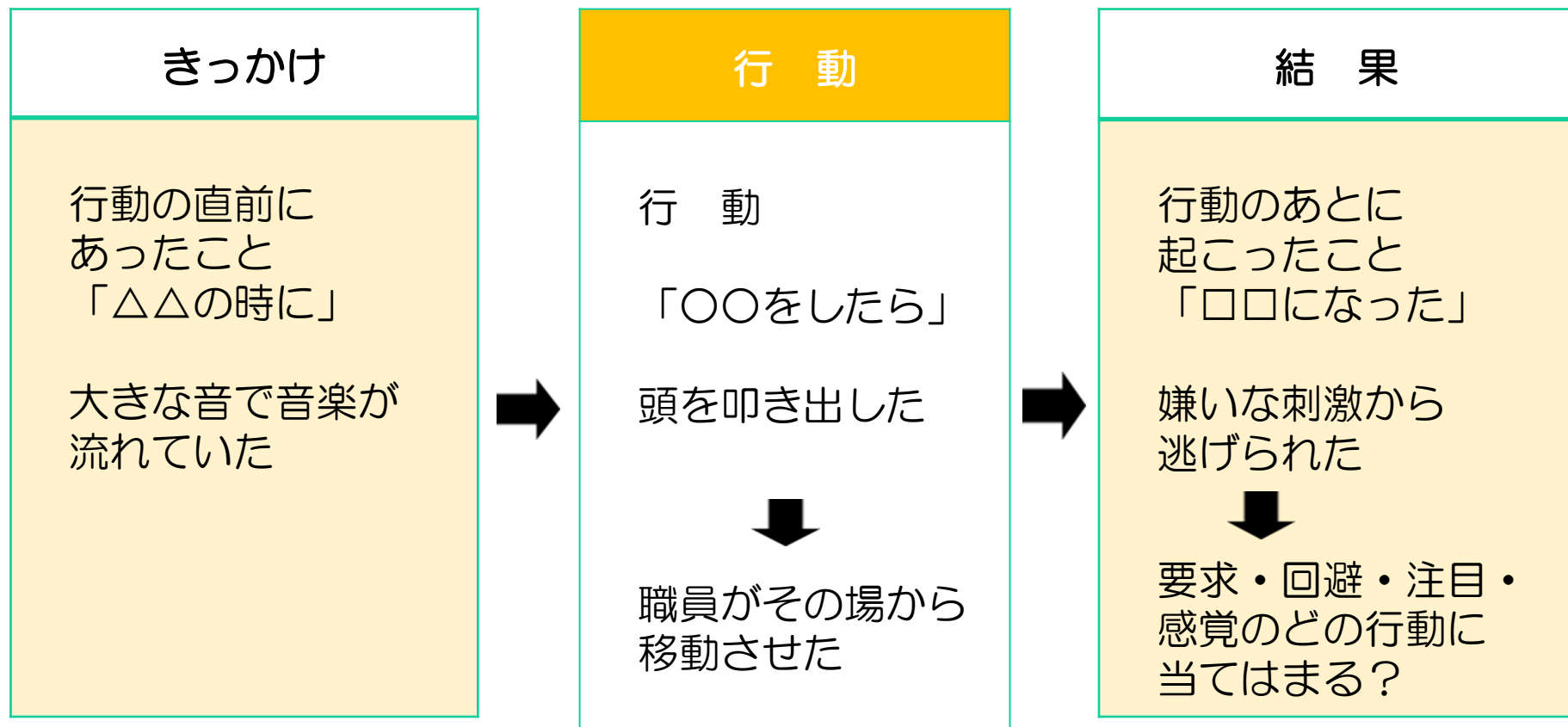
○問題となる自己刺激行動

- 逃避、回避
不快な刺激から逃れるため、強い刺激で紛らわす
やりたくないことを逃れるため
- 注目、要求
自分を見てほしい、かまってほしい
要求があるけど、うまく伝えられない
- 手持ち無沙汰
何もすることがない、何をしたらいいかわからない

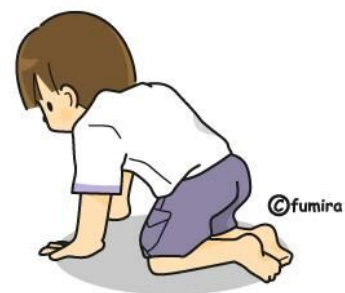
※どんな時に起きているか記録を取り、対策を考える
コミュニケーション手段を身に付ける
見通しを持たせる、別の楽しめるものを探す

0. はじめに・・・困っているのは誰？

具体的な支援の考え方



支援者として大切なこと



4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○自己肯定感を高めていく

○信頼してもらえるよう努める

○理想論、社会的望ましさを押し付けない

これを常に頭の片隅に置いて、支援を考える



4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○二次障害とは

見えにくい一次障害



周囲の無理解

失敗経験・怒られ経験



自己評価の低下



二次障害

まわりからは

- ・わがまま、自己中心的、困った子



本人は

- ・頑張ってるのにできない
- ・みんなわかってくれない
- ・自分はダメなやつだ

無気力、うつ、家庭内暴力、依存、ひきこもり、精神病的症状

4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

二次障害を防ぐために・・・

○自己肯定感を高めていく

○信頼してもらえるよう努める

○理想論、社会的望ましさを押し付けない

これを常に頭の片隅に置いて、支援を考える



4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○自己肯定感を高めていく

自己肯定感が高い状態とは

- 自分はかけがえのない大切な存在だと思えること
- 得意なところも苦手なところもある自分、
それでいいんだと思えること



4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○自己肯定感を高めていくために・・・

- ・まわりから正しく認められることが必要
年齢相応で考えず、その方の発達段階で
できていることを評価する



ほめ上手になりましょう

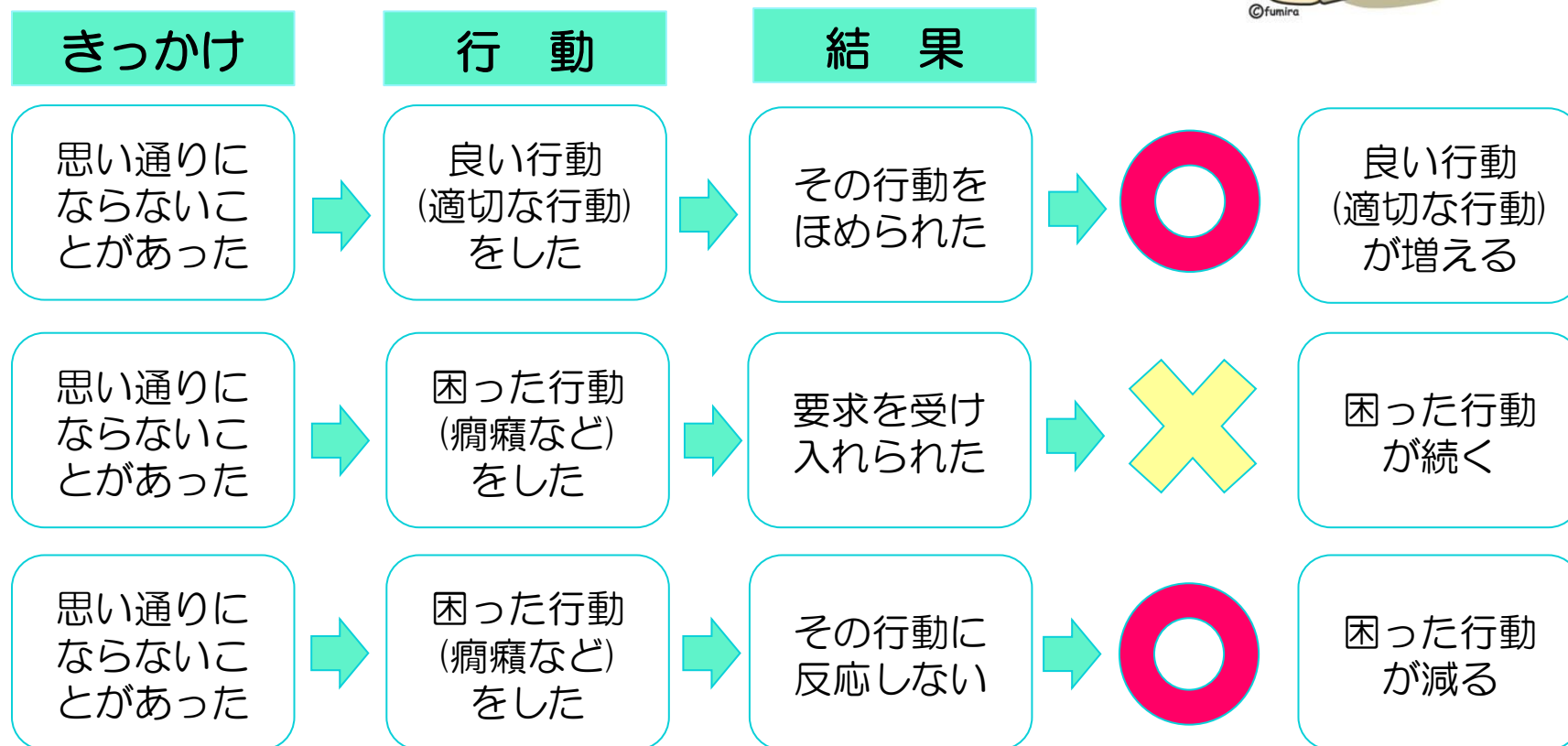


4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○自己肯定感を高めていくために・・・

・行動療法の考え方



4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○自己肯定感を高めていくために・・・



- ・他者からの「注目」の力

注目

- ・肯定的な注目：ほめる、認める、笑顔を返す
→良い行動（適切な行動）が増え、自信につながる
- ・否定的な注目：注意する、叱る、ため息をつく
→困った行動（不適切な行動）が増え、自信を失う

- ・どちらの注目も本人の行動を強化する力がある

ほめて（肯定的な注目）、良い行動を増やす

4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○自己肯定感を高めていくために・・・

- ・ほめ方のコツ

重要！ 25%ルール

- ・よい行動をした時、すぐに、できるだけ早く
- ・視線を合わせて 本人のそばで
- ・穏やかな表情、明るい声で
- ・短く、簡単に 皮肉・批判はさける
- ・具体的に何がよかったのか、行動をほめる
- ・性格や感じ方にあわせたほめ方を



4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○信頼してもらえるように努める

- 自分を信じてくれる人を人は信じる
- 支援者が本人を信じることから始まる
- 本人が支援者を信頼することができて、初めて支援は効果を発揮する



4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○信頼関係を築くために・・・



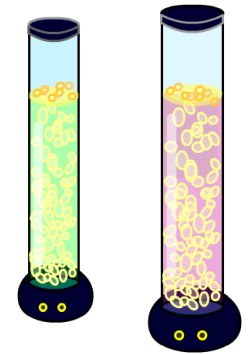
Aちゃんはいつも、
私に意地悪する！

- 本人の言い分を聞く
事実でなくても、被害的に捉えていたとしても、本人にも
非があったとしても、本人はそう感じている
- 本人の思いは否定しない
共感するのではなく、
「あなたはそう思ったんだね」と受け止める
- 意見は I メッセージで伝える
- 理由や言い訳を話す前に謝ることも時には必要
- 感情的になると言い争いになることが多いので、
できるだけ感情的にならずに話すことが大切

4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○信頼関係を築くために・・・



- 本人の「好き」と「嫌い」を見つける
環境（音、光、人との距離、etc）活動、遊び、・・・
- 「好き」な時間を多くし、「嫌い」な時間は少なくする
例：静かな環境で過ごせるようにする
本人の好きな場所で過ごせるようにする
作業の後に好きなDVDを見る時間を作る
おやつに自販機でコーヒーを買って飲む
- 「嫌い」なことをする人のことは嫌いになる
- 「好き」が多い方が穏やかに過ごせる

4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○理想論、社会的望ましさを押し付けない

- 我慢を強いている
不快なことを我慢させていないか
「仕方ない」で片付けていないか
- 根性論で話していないか
「やればできる」「できるはず」と思っていないか
「サボっている」と思っていないか
- 自分の価値観で話していないか
「〇〇した方がいい」と言うことが多くないか
本人たちの好きなことを否定的な目で見えていないか



4. 支援者として大切なこと

発達障害の支援で大切なこと

○自己肯定感を高めていく

○信頼してもらえるよう努める

○理想論、社会的望ましさを押し付けない

これを常に頭の片隅に置いて、支援を考える

